

HistoricCar Meeting in Toyohashi 2012

■第5回 ヒストリックカーミーティング イン 豊橋

©2012年5月12日-13日 @愛知県 豊橋市を基点に三河湾と浜名湖周辺
text: Kenji NAKAMOTO (中本健二) photo: car magazine (編集部)



スタート会場のホテルシー/レズリゾートには、全国各地から60台以上のヒストリックカーが大集合。スタートの時間まではちょっとしたミュージアムといった雰囲気。



「ワインディングだけでなく、海岸線も楽しんでもらえるようなコース設定をした」と大会委員長の天野さんが話すように、三河湾を望むシーサイドロードもルートに組み込まれた。

60台以上のヒストリックカーが豊橋の名所を走破

第5回ヒストリックカーミーティング イン 豊橋が、5月12〜13日に開催された。エントリー可能車両は、1980年までに製造されたヒストリックカーおよびスポーツカー。そして今回はスペシャルゲストとして、ユニオンジャックカラーのEタイプ、さらに4台のモーガンスリーホイラーも参加しイベントを盛り上げている。

コマ図ラリーは、シーサイドパレスホテルをスタート&ゴール地点に設定してスタート。大会委員長の天野氏が「ワインディングと併せて、海を見ながらの走行も楽しめるシーサイドランも盛り込んだ」と話すように、オレンジロードや三河湾、その他にも浜名湖畔や三河湾スカイラインなどを巡るコースが盛り込まれていた。

またイベントタイトルに「ミーティング」と入っているように、アットホームな雰囲気、初心者や女性コン



イベント期間中には、地元紙、東愛知新聞社の主催で地元の人たちも巻き込んで、クラシック写真コンテストを開催。優秀作品は同紙を彩り、さらに賞品もプレゼントされる。



豊橋市役所のチェックポイントでは、「しおかせ太鼓」のメンバーが力強いバチさばきでエントラントたちを迎える。豊橋の文化にも触れることの出来るラリーになるのだ。



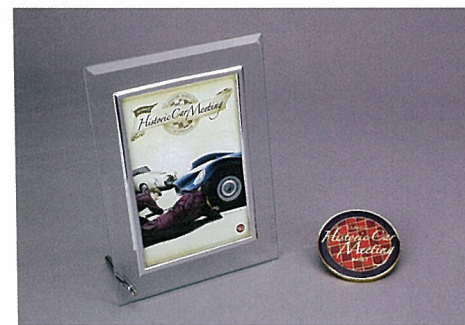
1日目の競技を終えて開催されたディナーパーティーの席上には、東愛知新聞が用意された紙面を見るとびっくり。大々的にイベント告知がされており、町ぐるみでこのイベントを盛り上げている。

ピで参加して楽しめることもこのイベントの魅力。今回は、イベント連覇中だったにもかかわらず、平野・磯貝ペアが最後尾からの競技指導者を引き受け、参加者の目線から初心者をサポートするなどの心配りも取られた。

次回は、2012年12月に志摩スペイン村を舞台としたミーティングが予定されている。競技としての公道ラリーに参加したい方、また肩肘張らずにゆっくりと志摩の魅力や名所をヒストリックカーで巡りながら楽しみたい方まで幅広い要望に応えてくれるイベントだ。

今回は60台の制限を超える応募があり、残念ながら参加できなかった希望者もいたとのこと。そのため、参加を考えている方は早めのエントリーをおすすめしたい。

プレゼントが豊富なこともこのイベントの魅力で、1日目の競技を終えてホテルへと戻るとオリジナルワインの他、フォトスタンドやカーバッチなども参加者に配られた。



■問い合わせ先
ヒストリックカーミーティング実行委員会
E-mail:kayo-cox@nifty.com
URL:http://historiccarmeeting.com/

Car Mag's Pick Up 女性コンビで旧車ラリー参戦



ジャガーEタイプでエントリーしていた坂上さん親子は、なんと女性同士での参加。ボンテベルレなど、このコンビで何度かイベント参加経験を持つだけあり、息もぴったりと三河湾技能センターのステージを駆け抜ける。



参加車両とは別に、デモンストレーション走行を披露するため4台ものモーガン・スリーホイラーが集結。フロントに剥き出しで搭載されるエンジンをじっくり見つける来場者も多かった。



スタート会場を通過していくスペシャルゲストのモーガン・スリーホイラー。ゴールゲートをくぐるとすぐに30m7秒、50m12秒、30m6秒の3連続P.C.へ突入だ。



1日目のスタンプポイント豊橋市役所では、地元では大人気のキャラクター?トヨキキと海の女王が、ボルシェ・カレラRSなど次々たる参加者たちをお出迎え。



ロータス・エラン・スプリントで参加の向山夫妻は、Aクラス4位でフィニッシュ。5月の晴天に恵まれて暖かい日差しが降り注ぐなかを、ヒストリックカーは隊列を作り走行を楽しむ。



初日最後は、なんと港湾技能センターの施設を貸し切って開催。3連続P.C.×2本とあって、ここで高ポイントを叩き出したエントラントが総合結果でも上位に食いこんでいる。



ボンネットのレザーベルトやカーバッチが決まったオースチン・ヒーレー100/6で参加は吉川夫妻。磨き上げられた車体で、浜名湖のレイクサイドを気持ちよそに駆け抜ける。



蔵王山展望台のスタンプポイントを通過して、峠道を颯爽と下っていくフォード・マスタング。海あり山ありと、豊橋の自然を満喫できるコース設定に参加者も大満足の様子。



ラグーナ蒲郡のメゾンブランシュでランチを終え午後の競技をスタートする。ジャガーEタイプで参加の澤村、橋本コンビ。アナログで頑張ったといいつつCクラスで3位入賞と好成績を残した。

1日目の走行を終えたクルマがシーサイドパレスホテルに整然と並ぶ。たまたま層合わせた宿泊客、また地元紙で告知を見た来場者で大きな賑わいを見せていた。



ヒストリックカーラリーで競いつつ、豊橋の魅力も存分に堪能できるイベント。

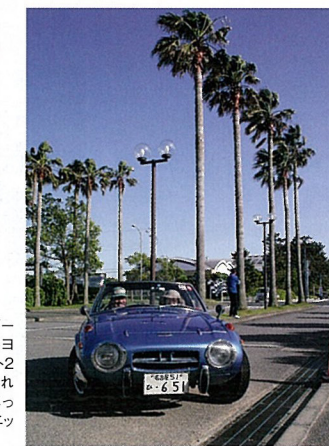
Car Mag's Pick Up 優勝の栄冠は磯部ペアが獲得!



第5回ヒストリックカーミーティングの優勝は、アルファ・ロメオ・ジュリエッタを駆る磯部光伸、佐藤子さん夫妻。コドドライバーを務めた奥さんは、時間やルート設定を完全に覚えるため深夜まで頑張りドライバーを支えた。3日目の挑戦で見事1位に輝いている。



ヒストリックカーミーティング連覇中だった平野・磯貝ペアは、今回は競技指導者として最後方からのスタート。初参加の人たちをフォローしつつもAクラス2位入賞はあっぱれ。



2日間の競技を終え、ゴール会場へとやってきたトヨタスポーツ800。イベント2日間を通して晴天に恵まれたため、どの参加者も真っ赤に日焼けした顔でフィニッシュとなった。